

「母」ちひろ どんな人？



母いわさきちひろの思い出を語る息子の松本猛さん＝練馬区で

息子の松本猛さん、練馬で

没後44年「語らねば」

絵本作家いわさきちひろ（一九一八―一九七四年）の命日の八日、自宅跡に立つ「ちひろ美術館・東京」（練馬区下石神井四）で、

息子で同館常任顧問の松本猛さん（左）のトークがあった。館内に復元されている自宅アトリエで、来館者に母との思い出を語った。

生誕百年の今年、同館が命日を「ちひろ忌」と名付け、しのぶ催しとして開いた。世界中の子どもの平和と幸せを願ったちひろは、愛らしい子ども絵を描き

続けた。その作品は、にじみやぼかしを取り入れた柔らかな画風で知られている。

松本さんは、ちひろが紙に塗った絵の具を水で流しては塗り、乾くとまた水で流して塗るを繰り返して、複雑な色を生み出していたことを紹介。子どもを細部まで観察し「指の表情で性格や感情を出すのがスタイルだった」と話した。仕事に疲れると、アトリエに置いていたピアノを弾いて気分転換していたという。

今年から「ちひろ忌」を

設けたことについては「没後四十四年たち、ちひろが歴史になりつつある。間近に知っている人間が語っていかないといけない」と話した。同館は「ちひろ忌」の催しを今後も続けていく。

（渡辺聖子）